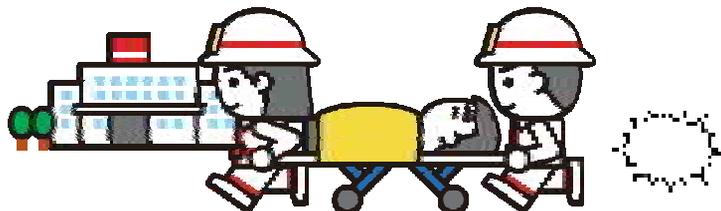


えっ、そうなんだ！意外と知らない

救急のまめ知識



9月9日は9（きゅう）と9（きゅう）で「救急（きゅうきゅう）の日」です。昨年は救急出動件数・搬送人員とも過去最多を記録！これで6年連続の増加となり、救急隊の現場までの到着時間も遅くなっています。また、救急車で搬送された人の約半数が入院を必要としない軽症という現状でもあるとか。

さて、今月号は救急についてまとめてみました。救急医療を安心して利用できるように、できればお世話になりたくないものですが、もしもの時に役立つ情報も集めてみたので是非ご参考に♪

救急通報のポイント

救える命を救うためには、**応急手当**が重要です。応急手当が必要な場合は、消防本部から電話で指示されます。救急車が到着するまではどうしても時間がかかるのでいざというときに、大切な方を救うためにも**正しい応急手当**を身につけておきましょう。



応急手当をしている人以外にも

人手がある場合は、**救急車の到着まで案内**

「ここが目的地です」



救急車を呼んだら、**こんな物を用意しておく**と便利です。



（乳幼児の場合）

緊急医療の受診について



症状に緊急性がなくても、「交通手段がない」「どこの病院に行けばよいかわからない」「便利だから」「困っているから」と救急車を呼ぶ人がいます。また「平日休めない」「日中は用事がある」「明日は仕事」などの理由で、救急外来を夜間や休日に受診する人もいます。救急車や救急医療は限りある資源。いざというときの皆さん自身の安心のために、救急医療の受診について考えてみませんか。



救急発祥の地、横浜

1933年(昭和8)年3月13日、今から82年前に、全国で初めて横浜市に救急車が配置されました。当時は神奈川県警察部山下消防署と言って警察組織の中に消防がありました。



最初に配置された救急車は**アメリカ製のキャデラック**で、**8気筒32馬力、最高時速40Km**。当時、交通の主力は荷車や馬車、自転車であり、時速40Kmで走行する救急車は市民の目にどんな風に映ったのでしょうか。

救急車のサイレンは2種類あった!

まずは、通常緊急モードの「ピーポーピーポー」音。そして、もう一つは「ウー」というサイレンです。この「ウー」という音は、交差点に進入するときや追い越しをかける際に、対向車側で出る場合などに鳴らすのですが、対向車や青信号で進む車あるいは歩行者などへの注意喚起のために鳴らしているそうです。



いざという時のために。

深夜の発熱、日曜日の草野球で張り切りすぎてねんざ、明け方急に腹痛など。病気、けがは時間曜日を選びません。

いざという時、あわてないためにもかかりつけの医師の連絡先、各市町村の休日夜間診療所、当番医の電話番号、診療時間を調べておきましょう。

なお救急医療機関の検索etc、あいち救急医療ガイドのホームページを利用すると便利です。最寄りの「今、診てもらえる病院・診療所」の検索ができますよ↓↓

<http://www.qq.pref.aichi.jp/>



医療機関が見つからないとき、愛知県救急医療情報センターへお電話を。高浜・碧南・安城・刈谷・知立は

0566-36-1133

です

参考:消防庁